

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

〔不許複製〕

1 級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。
19、20は国字で答えること。(40)

(三) 次の1〜5の意味を的確に表す語を、後の□から選び、漢字で記せ。(10)

- 1 憲政の本義を闡明する。
- 2 是以上の斟量は無用であろう。
- 3 鈕釦に意匠を凝らしてある。
- 4 和尚の蚌蛤禪に驚き、心服した。
- 5 時珍曰く、俗に糯粟と呼ぶは是なり。
- 6 懸流千丈、渾洪轟怒す。
- 7 老皮の皺皺交して縦横たり。
- 8 酖酖然として安且つ楽なり。
- 9 饕餮にして饜くこと無し。
- 10 膏腴を去りて磽确に就く。
- 11 雲門曰く、世界怱麼に広闊なり。
- 12 時に聴く、西風拉瑟の声。
- 13 蘿篠の陰、依稀の氣象山林に似たり。
- 14 狼狽躓礙して、復他の計無し。
- 15 齋咨涕洟、咎無し。
- 16 部落隔離し、酋豪猜忒す。
- 17 噫欠すれば飄風と為る。
- 18 四たび淀湾を上下す。
- 19 扇を禁じ笠を去り扱免する母からしむ。
- 20 霰電なる者は一氣の化せるなり。

- 21 逌にミス一つしない。
- 22 噉いて我慢がならぬ。
- 23 皮の小札が鎧を覆っている。
- 24 銀の鉢を持ちて水を汲みありく。
- 25 人間は捧ぐべき定めの摯を忘れたり。
- 26 是の故に尸諤つ。
- 27 頃公是を用て佚れて反らず。
- 28 治を言う者は三王に予す。
- 29 否徳にして帝位を忝めん。
- 30 知を致すは物に格るに在り。

- 1 マサカそんなことはあるまい。
- 2 一本ドッコの帯を締めている。
- 3 鄭重にダビに付された。
- 4 俗塵を通れユウスイの地に隱栖する。
- 5 大願成就して神社にホウサイに詣でた。
- 6 雨後のニワタズミが眩しく光る。
- 7 一目惚れして寢寐にケンレンする。
- 8 太鼓の鮮やかなバチサバきに驚愕した。
- 9 トウカイヘキがあり正体を掴ませない。
- 10 コツソシヨウ症が疑われた。
- 11 テツカイを突いて諸方を行脚する。
- 12 酔った彼女がシナダれ掛かってきた。
- 13 女にスカされて大金を捲き上げられた。
- 14 ココウ憔悴して見る影も無い。
- 15 諸本をコウカンして定本を作る。
- 16 天上より人間界をコウカンし給う。
- 17 仏教関係のコウカンな著作がある。
- 18 コウカン自重すべし。

- 19 弓庭にますらおのトモの音すなり。
- 20 胸ふたがり言葉にツカえる。

- 1 青海亀の別称。また大酒呑み。
 - 2 老人と小児。
 - 3 睡眠中の旅客の金品を盗む者。
 - 4 声を張り上げる。大喝する。
 - 5 詩文を作ること。また詩文の翫賞。
- (四) 次の問1と問2の四字熟語について
答えよ。(30)

かくど・かんたんし・しょうがくぼう
はこし・ふうそう・ぼうげい
ゆうやろう・れいせい

問1
次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)

- | | |
|--------|--------|
| (1) 三絶 | 暴虎(6) |
| (2) 千里 | 被髮(7) |
| (3) 飲羽 | 泥車(8) |
| (4) 量力 | 披荆(9) |
| (5) 顕実 | 落弁(10) |

いへん・かいごん・がこう
かせき・さじん・ざんきよく
せきせき・たくとく・はべつ
ひょうが

問2
次の1〜5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)

- 1 才能や徳などを露にしない。
- 2 書画や文章に勢いがあるたとえ。
- 3 勉強が長続きしないこと。
- 4 時流に応じて身を処する。
- 5 人の見ることに極めて稀なもの。

驥服塩車・精励恪勤・雍也論語
衣錦尚絅・鱗角鳳嘴・遷徙偃仰
衍曼流爛・兎起鵲落

1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(五) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

- | | |
|------|---------|
| 1 海蛆 | 6 蕃茄 |
| 2 及己 | 7 尸童 |
| 3 小舌 | 8 稜威 |
| 4 海布 | 9 西藏 |
| 5 帷子 | 10 江浦草髪 |

(10) 1×10

(七) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。
□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 口舌 | 6 古稀 |
| 2 暢達 | 7 維綱 |
| 3 称揚 | 8 道塗 |
| 4 陞叙 | 9 恪気 |
| 5 来者 | 10 寿夭 |

(20) 2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分
を漢字で記せ。

- インカン遠からず。
- キュウジンの功を一簣に虧く。
- ワラヅトに国傾く。
- ヘイスイ相逢う。
- ボウケイの交わり。
- 心腹をユシヤす。
- ゴソ五技にして窮す。
- ノミと言えば槌。
- リヨウバン鳳逸の士、皆名を収め
価を君侯に定めんと欲す。
- 明は以て秋毫の末を察するに足れども
而もヨシンを見ず。

(20) 2×10

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義
にふさわしい訓読みを(送りがなに注
意して)ひらがなで記せ。

〈例〉健勝……勝れる

けんしょう
すぐ

- | | |
|--------|--------|
| ア 1 揀退 | 2 揀ぶ |
| イ 3 惴縮 | 4 惴れる |
| ウ 5 捫蝨 | 6 捫る |
| エ 7 凭肩 | 8 凭れる |
| オ 9 品鶯 | 10 鶯める |

(九) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30) 2×10
1×10

A

¹ソウモウの微臣田中正造誠恐誠惶頓首頓首謹みて奏す。伏して惟んみるに臣田間の匹夫敢えて規を踰え法を犯して鳳駕に近前する其の罪実に万死に当たれり。而も甘んじて之を為す所以のものは洵に国家生民の為に図りて一片の耿耿^ア竟に忍ぶ能わざるもの有ればなり。伏して望むらくは陛下深仁深慈臣が至愚を憐れみて少しくイツヤ²の覧を垂れ給わんことを。伏して惟んみるに東京の北四十里にして足尾銅山あり。臣夙に鉅毒の禍害の滔滔底止する所なきと民人の痛苦其の極に達せるとを見て憂悶手足を措くに処なし。嚮に選ばれて衆議院議員と為るや第二期議会の時初めて状を具して政府に質す所あり。爾後議會に於いて大声疾呼其の拯救の策を求むる茲に十年、而も政府の当局は常に言を左右に托して之が適當の措置を施すことなし。而して地方ボクミン³の職に在るもの亦テン⁴として省みるなし。甚だしきは即ち人民の窮苦に堪えずして群起して其の保護を請願するやユウシ⁵は警吏を派して之を圧抑し誣いて兇徒と称して獄に投ずるに至る。伏して惟んみるに陛下不世出の資を以て列聖の余烈を紹ぎ徳四海に溢れ威八紘に展ぶ。億兆昇平を謳歌せざるなし。而も輦轂^オの下を距てる甚だ遠からずして数十万無告の窮民空しく雨露の恩を希うて昊天に号泣するを見る。嗚呼是聖代の汚点に非ずと謂わんや。而して其の責や実に政府当局の怠慢⁶コウシヨク⁷にして上は陛下の聡明を壅蔽し奉り下は家国民生を以て念と為さざるに在らずんばあらず。

(田中正造「直訴状」より)

B

「檜灰^{スモ灰}」とかいうものを塗^カして筆つくる料にとて毛の膩^キを去らんと働き居る人、筆造りの家、鬚籠^{ひげこ}其の他さまざまの竹細工もの鬻ぐ舗など見かくるようなれば、はや有馬に着きたりと思う間も無く輿丁は我等を下の坊という客舎の前に下ろしぬ。太華山人はソウユウ⁷の地なれば知れる家のありたるなれど何家も同じことなればと内に入りて一周間ほどの逗留を頼み聞こゆるに、五十ばかりなる齡の肥え逞しき亭主先ず我等がホンガン⁸姓名を糺し、何彼と暫時^{しばらく}問答して後漸く一室に請じ入れたり。室は狭からず又陋^クしからねば二人とも不快なることも無く酒を呼び下物^{さかな}を命じて、酒後の飯、飯後の茶、いと心よくものし了わり、さて老婆に導かれて浴室に到りけるが、さまで闊からざる湯槽の中は混濁^{ケツ}して男の手の触れしに驚く処女もあり。山人は汗出づるまで浸り居らねば効驗なしとて、熱くはあらぬ湯の中に汗の珠^{たま}の禿顚^{くたん}のヨウラク⁹かとも見ゆるまでホトバシ¹⁰リ湛うに至る間漬かり居し。

(幸田露伴「まき筆日記」より)